

なるほどのじ



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報 今月のトピック紹介版

7月号



【中学校 数学科】

数学訪問から考える授業づくり

～円滑な幼保小連携・接続をめざして～

子どもの学びと育ちをつなぐために

今年度の数学訪問では、「令和8年度数学科の授業づくりのポイント」を基に授業を参観し、意見交換をしています。1学期の訪問より、好事例として米子市立尚徳中学校の取組を御紹介します。

令和8年度数学科の授業づくりのポイント

- ① 学習指導要領を基に、本時のねらい(授業で身に付けさせたい資質・能力)を明確にする。
- ② 生徒一人一人の学習状況を見取り、個に応じた指導や支援をする。
- ③ 本時のねらいに即した適用題を実施する。
- ④ 適用題の正答率80%以上を目指し、適用題が解けた生徒には、次の課題を準備する。
- ⑤ 全ての生徒が、教師が設定する明確なねらいや意図に応じて説明(表現)する機会を確保する。

ナイスポイント



※上記①～⑤に該当する部分について記載

【導入】

- ①本時のねらいを明確にし、生徒が見通しを持ち、学習に取り組めるようにしていた。

【展開】

- ②個人で取り組む時間が十分確保されていた。
- ②生徒の取り組む状況を教師が見取り、個に応じた支援や声かけをしていた。
- ⑤個人で考えた内容をもとに、全員が自分の言葉で説明していた。一人一人が自分の考えをもっている、分からないことを教え合ったり、新たな疑問を一緒に考えたりと、質の高いアウトプットになっていた。
- ③適用題では、解き方を説明することに重点をおいており、本時のねらいに沿った設定をしていた。
- ⑤苦手な生徒も相手に聞く前に、できたところまでを説明する機会を設けていた。
- ④普段の授業から同じような流れを定着させておくことで、適用題が終わった後も、生徒が自分で次の課題に向かえるようにしていた。

【終末】

- ②振り返りシートから生徒の理解度を見取り、次の指導に生かしていた。

<授業の流れ:1年生 正の数・負の数>

【本時のねらい】 正の数、負の数の除法について、その解き方を説明できるようになる。

【導入】

- 既習問題(正の数、負の数についての乗法)を解き、生徒同士で解き方を説明し合う。
- 本時のめあてを生徒と共有する。
『正の数、負の数の除法について、その解き方を説明することができるようになる。』

【展開】 ※「★」…教師が実際に行った支援等

- 個人で、教科書を見ながら問題に取り組む。
- 教師は机間指導を行い、生徒のつまずきを見取り、支援をする。
★乗法の考え方を参考にできるよう、教科書の該当ページに立ち返り、一緒に確認する。
★答えが分数になるときの分母・分子や約分の方法を、プリントに書き込みながら一緒に確認する。
- ペアで考え方を説明し合う。
- 全体場で共有し、生徒の言葉を使ってまとめていく。
★教師は、生徒が解き方の説明をするときに使った言葉(同符号・異符号・絶対値 等)をキーワードとしながらまとめていく。
- 適用題を個人で解き、その後、班の中で説明し合う。順番は偶然性のある方法で決め、全員が説明するようにする。
★教師は、「よく分からない場合は相手に尋ねること」や「相手に分かるように説明すること」を促す。
★教師は、生徒の疑問やつぶやきを把握し、解決しなかった部分については、適用題の答え合わせの時に取りあげる。
- 適用題が終わった生徒は、ワークの問題を解いたり、追加のプリントを解いたりする。

【終末】

- 今日の学習について振り返りをする。

★過去のお役立ち情報★



令和8年2月号
「数学訪問から考える
授業づくり」



生徒が「わかった」「できた」と実感したり、数学的な表現を用いて、自分の考えが表現できるようになったりすることを目指す上で、授業づくりの**5つのポイント**を意識し、日々の授業づくりに取り組みましょう。





子どもの学びと育ちをつなぐために、小学校等での日々の教育活動では、どんなことが大切なのでしょう。



【参考】

第4次鳥取県幼児教育振興プログラム
「遊べる子ども」（令和7年度改訂）
P.53～64



学びと育ちをつなぐ環境構成と指導計画の考え方

人的環境（保育者や教師の関わり）

- ①信頼できる関係性
- ②受容的なかわり
- ③子どもの資質・能力への信頼
- ④共に面白がり活動を発展させる工夫

物的環境（もの、空間、時間）

- ①安心できる環境
- ②共同注意の向けやすさ
- ③視線の合いやすさ
- ④人との関わりやすさ（近接性）
- ⑤表現のしやすさ（身体性）
- ⑥表現のしやすさ（発言の仕方）

指導計画の考え方

- ①個の興味・関心を活かした総合的な活動展開
合科的・関連的な指導
- ②活動展開に合わせた柔軟な時間設定
弾力的な時間割など
- ③個の遊びや学びが共有され広がる環境設定や活動
- ④全体での遊びや学びが個の遊びや学びに発展する活動展開

一人一人の「やってみたい」
をつなぎましょう。



実践のポイント



教科の学びに遊びを入れるということではなく、遊びのように夢中になって学びこめる仕掛けを工夫しましょう。

令和7年度 第3回西部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の合同研修会

子どもの『やってみたい!』をつなぐ架け橋プログラム 國學院大學 教授 吉永 安里 氏 資料より一部抜粋

令和8年度第1回幼保小接続推進研修会 (オンライン研修)

日時: 令和8年7月28日(火)

午後1時15分から午後4時まで

内容: 講義・演習

「つなげよう! 架け橋期の教育

～教育方法の充実・改善をめざして～」

國學院大學 教授 吉永 安里 氏



この研修を校区の園・小学校・義務教育学校等の合同研修会として同じ場で一緒に受講し、今後の取組について話し合うと、より効果的です。ぜひ、参加をご検討ください!!
開催要項等は、6月24日付けで小中学校課より通知しております。締め切りが間近となっております。各市町村教育委員会の学校教育担当課及び保育担当課より提示されている締め切り日を御確認の上、お申し込みください。



保育所と小学校が子どもの姿を共有し、連続性をもった支援をできるようになることが、子どもにとって何より大切なだと再確認しました。保育士として、これまでの遊びや生活の積み重ねをしっかりと学校へ伝えていく責任を感じるとともに、子どもたちが安心して学びに向かえるよう、今後も丁寧な関わりを続けていきたいと思いました。(保育士)

活動内容や環境が大きく変化するからこそ、一人一人の力や育ちを発揮できるような工夫が必要だと感じました。職員同士の繋がりは欠かせないし、園と学校においても、互いの現場の雰囲気や環境を直接見て感じる機会ももたなければならぬと強く感じました。(小学校教諭)

